

多久市高齢者福祉計画

高齢者が住み慣れた家庭や地域で、
安心して元気に暮らし続けることができるまちづくり

概要版

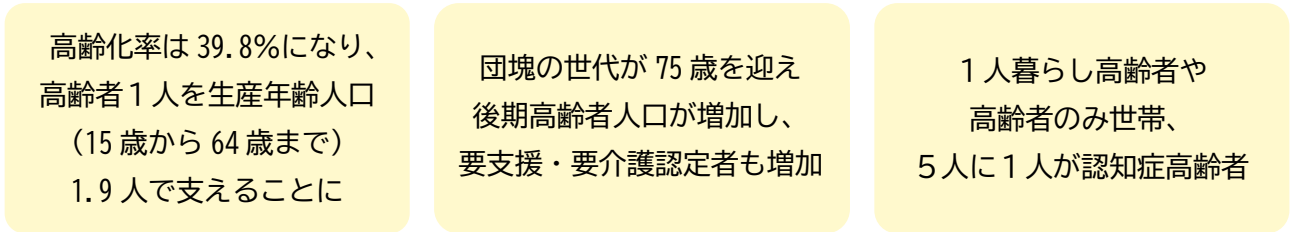


令和6年3月

多久市

1 計画策定の背景と趣旨

令和7年（2025年）の多久市の高齢者を取り巻く状況

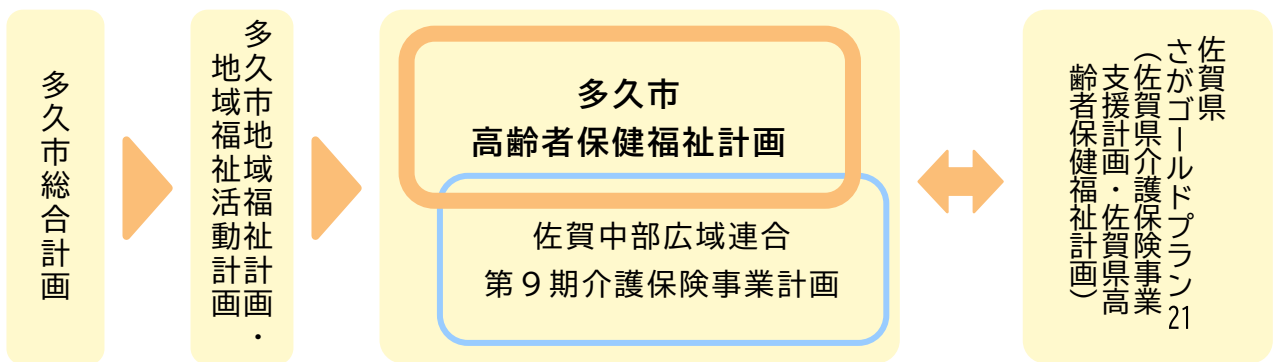


多久市で取り組む「健康」「予防」「介護」「生活支援」などの高齢者施策全般に関わる事業について、市民や関係機関などと連携しながら更なる充実・改善を図っていくために、地域包括ケアシステムの深化・推進を掲げ、新たな「多久市高齢者福祉計画」を策定します。

2 計画の位置づけ

(1) 計画の法的な位置づけ

この計画は、佐賀中部広域連合が定める「第9期介護保険事業計画」と一体的な計画として取り扱います。また、多久市総合計画や多久市地域福祉計画など関連する計画と整合・連携を図ります。



(2) 計画の期間

第9期介護保険事業計画に合わせて、始期を令和6（2024）年度として、目標を令和8（2026）年度とした3か年計画とします。

R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029
R3～R5 年度の計画			今回策定した計画			次期計画		
			2040年を見据え策定					

3 市民の姿と意見のまとめ

高齢者の実態

<日常生活・介護予防調査に回答された 386 名の様子>



●日常生活について●

- ・「15分程度あるきつづけることができる人」は70%、できない人は10%、できるけどしていない人は20%
- ・外出を控えている理由は「足腰のよわり」が32%、「病気のため」が14%、「交通手段がない」が13%、「外での楽しみがない」が11%
- ・運転免許証を返納するタイミングは「認知機能に危険があれば」が47.3%、ただし、「難しい」「考えたこともない」もそれぞれ10%程度いる

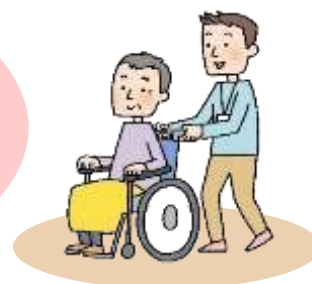
●地域とのかかわりについて●



- ・地域交流への参加について「ぜひ参加したい」人は5%、また男性の回答は、「参加してもよい」50%
- ・お世話役での参加は「ぜひ参加したい」人が2%、「参加してもよい」30%

●健康づくりや認知症予防について●

- ・疾病の状況については「高血圧治療中」が50%、「目の病気」が20%、「糖尿病」が17%、「筋骨格」16%
- ・「歯が19本以下で、部分入れ歯を使用し、しっかりと噛める人」は42%
- ・「物忘れが多い」人は35%



●情報発信や相談窓口について●



- ・情報取得の方法としては「市報」が72%、「テレビ」が58%、「家族や知人から」が36%、「新聞」が32%
- ・包括支援センターの高齢者相談機関としての周知・拡大が求められている

4 多久市における課題と計画の体系

- 総合相談から認知症の相談件数が伸びている
- 介護職の人材不足等が社会的課題としてあり多久市も人材確保が課題である
- 介護保険認定結果で、要支援認定は約 35%、1 年後に悪化が約 23%、維持が約 60%で推移している

要支援認定者の 1 年後の認定状況

1 年後評価	改善	改善 設定切れ含む	維持	悪化	総計
	件数/率	件数/率	件数/率	件数/率	
要支援 1・2	8	46	264	102	448
	1.8%	10.3%	58.9%	22.8%	

- 後期高齢者 3,500 人中、認知症で医療にかかっている人の 75.9%、397 人が高血圧や糖尿病を併せ持っている
- 介護保険申請時の原因疾患では認知症が 26.7%と高い

介護保険の認定者別、申請時の原因疾患

R3	認知症	関節疾患	脳血管	骨折・転倒	心臓病	がん	その他
人数	259	138	129	110	81	61	191
割合	26.7%	14.2%	13.3%	11.4%	8.4%	6.3%	19.7%

- 市民ニーズとして、買い物・病院への送迎や付き添い支援がある
- 介護が必要になっても「自宅で暮らしたい」との回答が 40%以上と高い
- 地域の通いの場は行政区の約 50%を超え、高齢者の約 13%が活動に参加している

住民主体で実施する通いの場（サロン）の設置数、参加者数

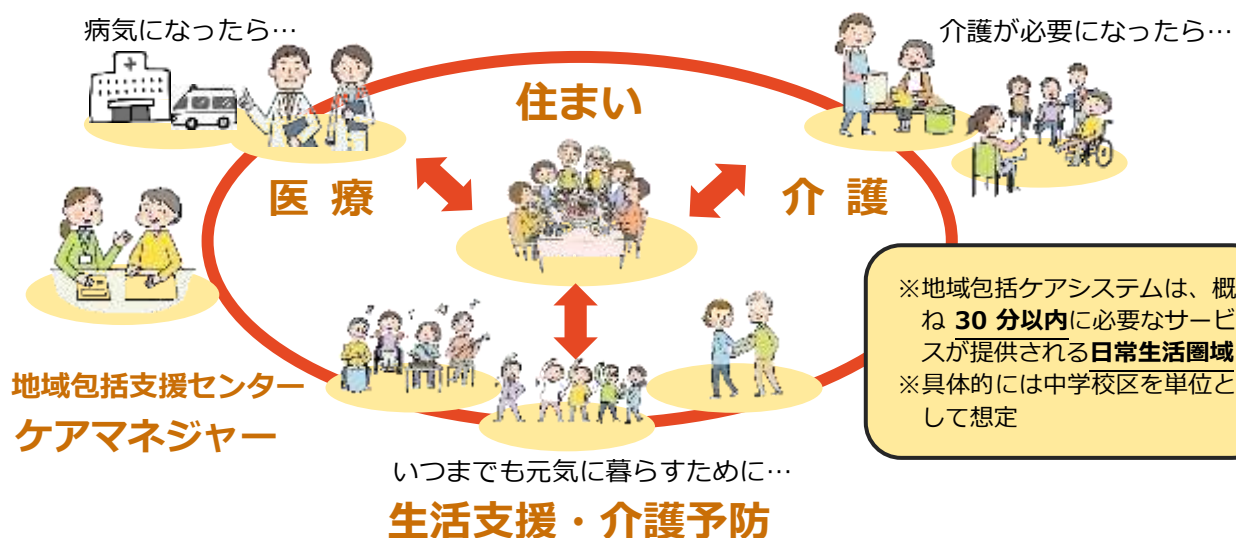
	いきいき百歳体 操実施地区数	(新規開始 地区数)	参加者数	サロン登録 地区数	参加者数
令和 4 年度	43 地区	8 地区	623 人	51 地区	920 人
令和 3 年度	35 地区	5 地区	541 人	48 地区	880 人

基本目標	施策の方向	取り組み内容
基本目標1 支え合いの 仕組みづくり	1 地域包括支援 センターの運営の 充実	① 相談と適切な支援へのつなぎに向けた体制の充実 ② ケアマネジメント体制の強化 ③ 権利擁護の推進
	2 在宅医療・介護 連携の推進	① 在宅医療・介護連携体制の強化 ② 住民への活動の啓発・普及
	3 認知症総合支援の 推進	① 高齢者やその家族に対する認知症の啓発 ② 認知症予防の推進 ③ 認知症高齢者の支援
	4 生活支援体制の 充実	① 生活支援体制整備事業協議体活動の推進 ② 地域特性にあわせた活動の充実
基本目標2 健康づくりと 介護予防の推進	1 健康づくりの推進	① 健康づくりの推進 ② 保健事業と介護予防の一体的実施の推進
	2 介護予防・生活支援 サービス事業の 充実	① 訪問型サービスの充実 ② 通所型サービスの充実
	3 一般介護予防事業 の充実	① 介護予防活動の推進 ② 地域の介護予防活動に対する支援体制の強化
基本目標3 自立と安心に つながる支援の 充実	1 社会参加の推進	① 地域における高齢者の生きがいづくり ② 高齢者が活躍できる環境づくり
	2 在宅生活の継続 支援	① ひとり暮らし等高齢者への見守り支援と 在宅生活支援の充実 ② 介護者への支援
	3 安心につながる 取り組みの推進	① 災害等における支援体制の充実 ② 地域の見守り体制の充実
	4 生活環境の充実	① 高齢者にとっての住環境の充実 ② 高齢者の移動支援の充実

5 施策の内容

基本目標1 支え合いの仕組みづくり

高齢者の暮らしを支える「支え合い」の地域づくりを進めながら、地域の課題を解決できるような仕組みづくり、「地域包括ケアシステム」を推進します。



このことを目指すために、市民や関係者のありたい姿は…

- 市民の相談窓口として地域包括支援センターの体制を維持し、啓発に取り組みます。
- わからない時はそのままにせず、相談し確認し、ひとりで抱え込まず、だれかに話しましょう。
- 家族等は介護保険サービス担当者会議等に参加しましょう。
- 市が開催する地域ケア会議に参加し、高齢者を取り巻く状況を知りましょう。
- 「大切な方への絆ノート」や「きずな手帳」をもち、この冊子を使って、自らの最期の在り方を考えるようにします。
- 認知症サポーター養成講座や介護予防講座、認知症カフェに参加することで、認知症を正しく理解し、自分のできることや交流を楽しみ、認知症の人へ適切に対応しましょう。
- 気軽に参加できる地域のサロン活動にも参加しましょう。



基本目標2 健康づくりと介護予防の推進

高齢者が、健診を受診し、必要な治療を継続しながら、介護予防や重度化防止の取り組みに積極的に参加できるよう推進します。

1

地域の居場所
通いの場を
つくろう



2

困りごとの
解決において
しくみに
取り組もう



3

自分の健康管理
筋力運動に
取り組もう



このことを目指すために、市民や関係者のありたい姿は…

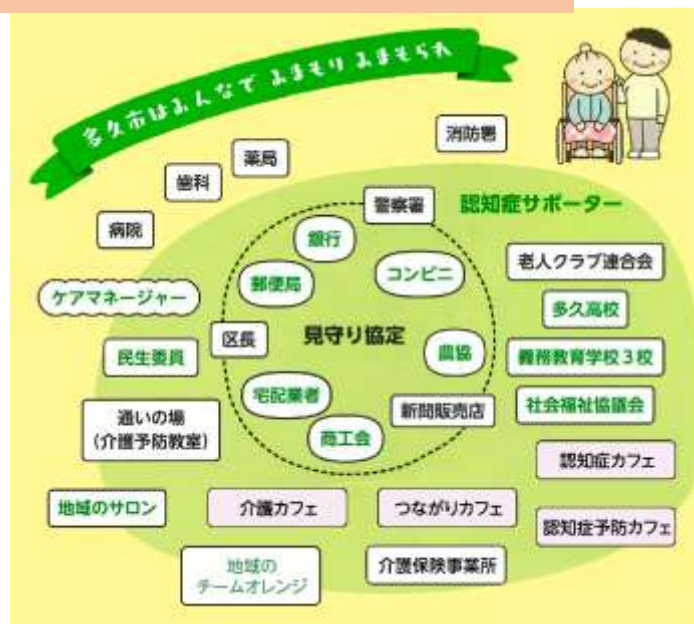
- 健康を守るために、必要な栄養を1日3回の食事で摂りましょう。
- 体を動かす通いの場活動に参加しましょう。
- 治療を自分でやめたりすることがないように声かけ・見守りをしましょう。
- 市の介護予防事業や地域の通いの場事業の情報を得て、教室に参加しましょう。
- 住民によるボランティア活動に参加し、介護予防の推進に協力しましょう。



基本目標3 自立と安心につながる支援の充実

高齢者が生きがいを持って、充実した生活を送ることができるよう、地域のつながりを支援し、活動などに参加できる環境づくりをすすめます。

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるために…



このことを目指すために、市民や関係者のありたい姿は…

- 高齢者が安心して長く住み続けられるような支援を行います。
- 老人クラブの活動支援として、多寿市老人クラブ連合会や単位老人クラブが実施している活動への支援を継続していきます。
- 一人暮らし高齢者等を対象とした民生委員・児童委員の活動として、独居高齢者への地域住民グループ支援事業（愛の一声運動）や緊急時要援護者見守り支援事業（まもりん）の該当者を把握し、登録を進めます。
- 市内関係機関との連携による災害時の支援に備えるとともに、災害発生時には各事業所において業務継続計画に基づき行動し、必要な事業の継続に努めます。

多寿市高齢者福祉計画 概要版
令和6年3月
発行者 多寿市 地域包括支援課
〒846-8501 多寿市北多寿町大字小侍7番地1
(TEL) 0952-75-6033 (FAX) 0952-75-8017